

様式第6号(第2条関係)

委員会等の会議録

1	会議名	第7回愛南町海業推進会議	
2	議題	愛南町の海業の推進について	
3	開催日時	令和6年11月13日(水) 9時30分から12時00分まで	
4	開催場所	愛南町役場本庁3階 大会議室	
5	傍聴者数	6名(内報道2名)	
出席者			
6	委員氏名	稲田 壘、大石 常也、大森 安洋、佐伯 謙、澤近 圭亮、 関根 麻里、高橋 翔、田中 純樹、永元 将博、濱 哲也、 浜辺 隆博、濱本 涼、古川 哲也、前田 眞、向田 和広、 森 裕之	
7	担当所属 担当職員 (職・氏名)	所属名	水産課海業推進室
			主幹 清水 貴光 室長補佐 尾崎 光弘 係長 清水 陽介 主事 賀屋 啓太、中村 一喜、小山 絵風 地域おこし協力隊 柳田 亮介
8	その他の 出席職員	所属名	
		出席職員 (職・氏名)	町長 中村 維伯
議事内容(次ページから)			

発言者	発言内容
尾崎室長補佐	<p>定刻になりましたので、ただ今から、第7回愛南町海業推進会議を開会します。本日の司会を務めます、海業推進室の室長補佐の尾崎です。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは開会に当たり、愛南町長 中村維伯から御挨拶申し上げます。</p>
中村町長	<p>(開会挨拶)</p>
尾崎室長補佐	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日は、公開会議として、外部記者の撮影、録音を認めています。委員の皆様は、発言の際はマイクの電源をオンにして、お名前を発言してからお話しいただきますよう御協力をお願いします。</p> <p>それでは、次第に沿って進めます。ここから先は、懇話会の規則に従い、座長を水産課長の濱に引き継ぎます。よろしくお願いいたします。</p>
濱座長	<p>本日は、お忙しいところ本会議に御出席いただき誠にありがとうございます。本日欠席と御連絡いただいているのが、ヤング委員、田中翔委員、深掘委員、後藤委員です。</p> <p>また、本町が海業実装推進委託業務を委託している、一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所からは、竹山様、川上様にお越しいただいています。</p> <p>そして、愛媛県庁から、漁港課伊藤係長、近藤技師、愛南水産課の高島課長にお越しいただいています。</p> <p>なお、李委員、水産庁海業企画班の成田課長補佐、愛媛県漁港課の加藤主幹は、オンラインでの参加となっています。皆様御出席ありがとうございます。</p> <p>それでは、次第に沿って会を進めます。</p> <p>まずは、これまでの振り返りとして、海業推進室の浜辺から報告します。</p>
浜辺委員	<p>久しぶりの全体会ということで、これまでを振り返ります。</p> <p>この海業推進会議を令和5年7月に立ち上げ、「なりゆきの未来からなりたい未来へ」というスローガンを掲げて議論してきました。基本理念としては、多主体連携による自立的な取組の創発ということで、会議をするだけでなく、いろいろな取組を</p>

発言者	発言内容
	<p>生み出すため、皆さんに集まっていただき議論してきました。</p> <p>2ページにあります、全体会は、いろいろな業種の皆さん25名が集まっています。そうすることで生まれてくる連携、そこから出てくるイベント、プロジェクト、ビジネスなどを、皆さんと様々な形で創出していくという構造を想像して取り組んできましたが、次のページにありますように、皆さんそれぞれの役割は違うと考えています。</p> <p>3ページにあるように、漁業、水産業、農林業といった一次産業の効果がどんどん上がり、商工観光、飲食、宿泊、レジャーなどと連携し、波及させながらいろいろなプロジェクトが生み出されていくと思っています。</p> <p>それを支えるものとして、行政や金融、教育、研究、地域おこし協力隊、メディアといった方が関わってくださるのではないかと思います、改めてこの会議の基本的な構造を整理しました。</p> <p>昨年度は、全体会を5回開催しました。1月31日の第4回の際に大野委員から出していただいた資料にもありますように、海業をどのように進めていくのか、どのような形なのかを整理した資料です。</p> <p>海業の羅針盤として、令和5年度にグランドデザインを策定し、基地の役割を果たす空母から、いろいろなプロジェクトが飛び立って、外部からお金を入れたり、町外に流出するお金を防ぐプロジェクトとしてどんどん実施していき、海業という名の下で活動していくという図を描いていただいています。</p> <p>今年3月に策定した海業グランドデザインの基本的なスローガンは、「全ての世代の思いがつながり、ともにわくわくする舞台を実現する」となっています。</p> <p>これは、皆さんから出していただいた言葉をつないだものです。そこには、理念として四つのことをパラグラフで表現しています。</p> <p>まず、過疎という現実を見つめましょう。そこに立ったときに、やはり魅力的な地域資源を未来につないでいく、それを私たちがしなければいけません。</p> <p>次に、その手段として、全世代がつながる新たなチャレンジ、更には美しい環境、海を次世代につないでいくチェンジ、こういったことをしていくことが、人と自然が紡ぐ私たちの舞台で、共にわくわくする愛南町の未来を作り出せるのだという基本理念につながっています。</p>

発言者	発言内容
	<p>令和5年度に議論して出てきた、「体験」、「担い手」、「空間」そして「豊かで美しい環境」という四つのキーワード、これをつないでいくということが海業の基本的なコンセプトです。</p> <p>ここから、いろいろなプロジェクトを五つ、令和5年度に掲載しましたが、白い文字で書いてあるとおり、各プロジェクトは例示であって、今後更新されていきます。未来の構想やアイデアも含み、これからどんどん作り出していくというのがこのグランドデザインの基本的なコンセプトです。今もこの会議から派生して、いろいろな議論が巻き起こっています。</p> <p>中心的な、キーとなるプロジェクトが、一つ目の「U m i d a s プロジェクト」です。今年度は、これについて様々な議論を重ねてきたところです。</p> <p>これまでに出了意見をまとめていますが、一つ大きな話として、高橋委員と柳田地域おこし協力隊員から、旅行業をしていくと御紹介がありました。これに関しては、様々取り組んできた中でいろいろハードルがあり、旅行業と連携していく姿で行うのが良いというのが、この半年間の大きな動きです。</p> <p>次のページに、U m i d a s の全体イメージを書いています。推進会議は右側の青い枠です。</p> <p>U m i d a s は何をするのか、各プロジェクトを支えていくという役割を担うのではないかと、そして、事務局を法人化することについて検討するということで進めてきました。</p> <p>その参考になるのが、第1回の海業推進会議で李委員から御紹介いただいた、岩手県田野畑村の中間支援組織というところです。</p> <p>この資料の右側に、「体験村田野畑」と書いていると思いますが、例えば、対内機能、対外機能をそれぞれ右側左側に書いていますが、対内的には漁師さんといろいろなコミュニケーションを取って、どのようなプロジェクト、おもてなしをしていくかという話をしながら、対外的には旅行会社と連携しながら、営業活動も行っているNPO法人です。</p> <p>実際に、6月にも紹介した視察を企画しました。10月に、推進会議のメンバー9人と私たちと合わせて14人で、田野畑村と、海業振興モデル地区のもう一つの地区である岩手県大槌町に視察に行ってきました。委員の皆さんに1分ほどで、感想と報告をしていただきますが、概要を簡単に説明します。</p> <p>まず、大槌町役場に行き、関係ステークホルダーの皆さんと</p>

発言者	発言内容
	<p>意見交換、グループディスカッションを行いました。二つのグループに分かれて、藻場、ウニの蓄養、ブルーツーリズム、海洋教育といったテーマで議論しました。</p> <p>次の日に、国の交付金を使っている地場産業活性化センターという拠点施設を視察しました。</p> <p>さらに、エコツーリズム、体験教育の担い手として、今年度新たに立ち上がった中間支援組織「NPO法人おおつちのあそび」というところに行きました。</p> <p>次に、体験村田野畑で行っている実際のコンテンツを体験しました。漁師ガイド体験として、机浜番屋群にて、漁師の方とNPO法人の方のアテンドで見学をしました。本当は船に乗る予定だったのですが、台風で海が大荒れだったので、サブプランの塩づくり体験をしました。</p> <p>最後に、NPO法人の拠点にもなっている環境省の施設「北山崎ビジターセンター」に行き意見交換をしました。</p> <p>ここに感想を書いています。いろいろな人が地域活性化に関わっている大槌町では、町外の方が震災を機に訪れて活動し、価値や魅力を再発見して移住して活躍されるという姿がありました。行政は、資金面や人的支援というところで関わっているというような状況を確認しました。</p> <p>私からの取組報告は以上です。</p>
濱座長	<p>ありがとうございました。質問等がありましたらお受けします。</p>
各委員	<p>(質問なし)</p>
濱座長	<p>次に、6月26日開催の第6回全体会以降の動きに移ります。まず、岩手県大槌町・田野畑村視察の各参加者報告について、森様から順番にお願いします。</p>
森委員	<p>はい、森と申します。</p> <p>先ほど浜辺さんからお話があったとおり、私も印象的だったことは、外部人材、移住者の方が地域の可能性を引き出す存在として活躍しているということです。その人たちが核になり、地域の人たちを結び付けて活動している姿に、非常に感銘を受けました。</p>

発言者	発言内容
田中委員	<p>また、いろいろな人たち、業種、世代、業界が連携して、総合的にまちづくりに取り組んでいる姿が印象的で、改めてまちづくりは総合力だと実感しました。</p> <p>同じような人口減少、高齢化が進んでいる地域ですが、こういった地域が、地域づくりや海業というテーマで結び付けば非常に面白い展開につながると思いますし、そうした活動もしていければと感じました。</p> <p>田中です。</p> <p>視察研修に行く前には、例えば観光誘致、観光地となりうる時に、首都圏からの距離がどれぐらいか分からないかと思っていました。調べると何時間で行けると書いてあるのですが、実際はどうかかと思っていました。ここから岩手県まで行くのも非常に遠いですが、東京からでも、花巻まで新幹線で行き、そこから車で移動となるので距離的にもかかります。また、実際に見た視察地は田舎だと思いました。つまり、愛南町も首都圏、関西からすごく遠いですが、距離の遠さに関してはあまり問題ないと思いました。</p> <p>愛南町の海業の中の観光であれば、どのようにして各事業者が連携して事業を立ち上げていくか、事業を行っていくモチベーションをどのように維持していくか、継続できる基礎が必要だと思います。</p> <p>また、観光資源だけに限定すると、愛南町はとても良くて、何でもあるということに改めて気付かされました。その点が、今回視察に行った意味合いとして良かったと思います。</p>
関根委員	<p>移住定住支援員、元地域おこし協力隊の関根です。</p> <p>田中委員が言っていたように、私は東京から愛南町に移住して、愛南町はたくさんいろいろなものがあると思っていたのですが3年目、4年目になって、良いものはある一方、距離も遠いためなかなか知ってもらえないと思っていました。しかし、岩手に行くと、愛南町にも海の中に色とりどりのサンゴや熱帯魚が生息していることや、産業的にも人材的にも愛南町のほうが恵まれていることを再認識し、移住してきた時の感動が、自分の中で薄れていたと感じました。</p> <p>また、大きな災害があり町を再建していこうという中で、皆熱い思いを持ってプロジェクトに取り組んでいました。役場の</p>

発言者	発言内容
前田委員	<p>中でも民間でも、愛南町より風通しが良く、活発な議論がされており、大槌町がいろいろなプロジェクトを推進できる要因になっているように感じました。</p> <p>愛媛大学の前田です。</p> <p>私が大槌町で感じたことは、復興を契機に思いのある外部人材の登用が進み、上手くマッチングができているということと、役場のバックアップが強いということです。</p> <p>海業だけでなく、海業を取り巻く様々な環境づくりが進んでいることと、役場自体がこの中間支援機能を少し果たしているようなイメージを持ちました。</p> <p>また、田野畑村の視察に行った時は、行政の皆さんの姿はあまり見えず、行政の皆さんは裏方で、民間主体のNPO法人が中間支援型の役割を果たしながら活動している印象でした。</p> <p>愛南町に振り返ってみたときには、大槌町のような、町も強力なバックアップをしながら民間の活動を進めていく取組の方が、親和性はあると思ったところです。</p>
澤近委員	<p>愛南漁協の澤近です。</p> <p>今回の視察は、大槌町と漁業や教育活動について情報交換することを目的に参加しました。大槌町の海に関する教育としてふるさと科があり、小中学生に対して総合の時間に年間約50時間、海洋教育をしているそうです。</p> <p>内容の一部は、小学校では特産品のサーモン、藻場の再生について学んで、中学1年生でワカメを実際に生産し、中学2年生でワカメの加工品を作り、中学3年生では、修学旅行先で自分たちの作った加工品を売るというもので、一貫して地元の特産品を学び、それを実際売ってみて、その価値を自ら知るという教育カリキュラムに驚きました。</p> <p>それをなぜ始め、続けているのか、大槌町の皆さんの話を聞いていく中で、海業を通して郷土愛を育む海洋教育を目指していると強く言われています。実際に、大槌町では、就職や進学などで子供は皆町を離れるそうですが、この9年間の教育で学んだ子供たちの中には、「大槌町はどうなったのだろう。」と思って帰ってくる子供もいるそうです。そういう人を今後増やしていきたいとのことでした。</p> <p>「おおつちのあそび」は、小学生が立ち寄れる、大槌町の海</p>

発言者	発言内容
佐伯委員	<p>について学べる施設をという思いから、拠点を造っており、このような施設は、愛南町にもすごく必要だと思いました。</p> <p>また、その中で最も印象が強かったのは、地域・教育コーディネーターの方の熱意がすごかったことで、これは本当に真似したいと思いました。</p> <p>南宇和金融協会の佐伯です。</p> <p>私の感想ですが、愛南町の環境や資源という観点で言うと、全く負けてないなというのが正直な印象です。</p> <p>ただ、そういった中で先進地区として動いているのは、非常に熱意のあるよそ者と、地元で顔の広いキーマンがうまく機能しているという印象でした。</p> <p>やはり東北ということで、地域の共通テーマがあるのかな、同じ方向を向けるようなシンボルが必要なのかな、という印象を受けました。</p> <p>また、拠点となる施設というのも充実しており、愛南町にもそういった拠点があれば良いなというのが感想です。</p> <p>さらに、地域を知るための施設として、大槌町の岩手銀行の本店舗跡を使われていましたので、金融協会としても、使えてない店舗や古民家をそういった拠点にできれば良いなというイメージが湧いてきました。</p> <p>ふるさとを知る教育というものがすごく重要なテーマだと感じましたので、「教育」もキーワードとして、これから取り組んでいきたいと感じました。</p>
高橋委員	<p>西海観光船の高橋です。</p> <p>視察に行って思ったことは、抱えている問題はどこも一緒だということです。特に感じたのが、キーマンとなる方がマンパワーでどうにか動かしているという現状があったかなと感じました。これから将来どうするのだろう、この後持つのかな、ということも感じました。</p> <p>ただ、一步進んでいると感じたのが、澤近委員が言ってくださったように、人材育成についても考えが普及し始めているところなんです。愛南も早くしなくてはいけないと感じたところではあります。</p> <p>ただ、小中学校、子供たちもそうですが、例えば、この会議のメンバーや、関わる人たち全ての教育環境を作っていくことも</p>

発言者	発言内容
向田委員	<p>すごく大事なのではないかと思います。</p> <p>ほかにも、資源は愛南町にもたくさんあるということもあります。岩手の方が自分で「岩手は何もない所だよね」とおっしゃっていたのですが、どこかで聞いたようなセリフなんですよ。良い悪いではなくて、岩手も結構田舎です。</p> <p>ただその代わりに、自然のスケールが違うので、愛南町のスケールと比べてみると、もう武器が全然違います。</p> <p>愛南町の良し悪しですが、たくさん良いところがあることでかえって絞りづらく、一つの分かりやすいものにつながらないということは、弱点にもなり得ます。</p> <p>隣の芝が青く見えるものなので、早くトライアンドエラーをたくさんやって、愛南町にヒットするものを作っていた方が良いのではないかと、というのが、私の感想です。</p> <p>向田水産の向田です。</p> <p>感想としては、大槌町には愛南町と似ていると思うところがたくさんありました。</p> <p>改めて愛南町の魅力も感じましたし、地震が与えた影響は大きいと感じました。テレビで見えていましたが、防潮堤が大きくて、物理的にも海と人間の距離をすごく感じました。</p> <p>愛南町も少なからず地震の危険性もありますし、そういう可能性もあると考えたときに、海に対する無関心、無興味、海に関わるものが減っていくことは、海業として解決に取り組むべきことと感じました。</p> <p>田野畑村に関しては、15年以上たっており、NPO法人から活動していたので安定感があり、サービスも充実していましたし、コンテンツがしっかりしていたのですが、若干の停滞感、人材育成がうまくいってないのではないかと、というところを感じました。</p>
清水陽係長	<p>水産課の清水です。</p> <p>私も愛南町に移住してきたのでよく分かるのですが、愛南町はすごく良いものがたくさんあるので、愛南にはないものを持ってきて新しい事業をするよりは、今、愛南町にあるものをうまく使って、いろいろな人たちと連携して新しい事業をするということがまず一番大事だと感じました。</p> <p>また、人材が少ないので、やってみようというプレーヤーが</p>

発言者	発言内容
柳田隊員	<p>なかなか出にくい環境ではありますが、一人でも二人でも出てきた場合に、それを全力でサポートする体制づくりが大事だと感じました。</p> <p>全力でサポートするにはどうしたら良いかという、トライアンドエラーをしやすい環境を作っていくことが重要だと思っています。</p> <p>さらに、羨ましいと思ったのが、おおつちのあそびという場所がものすごく魅力的で、学校帰りの子供たちが気軽に立ち寄って、海の学習も含めて気軽に勉強をして帰るといってお話もあったので、そういった、地元の子供たちが、堅苦しくなく気軽に立ち寄って、自然に海のことを学べる場所が愛南町にもできたら良いと思いました。</p> <p>地域おこし協力隊の柳田です。</p> <p>番屋という、海沿いの漁師の掘っ建て小屋のようなところを、漁師さんが実際に案内してくれる「番屋ガイド」というものがあつたのですが、現役、元漁師を含めて実際の漁師さんがガイドしてくれるような、人との触れ合いというものを愛南町でも実施していけば、いわゆる口コミや、リピーターを呼ぶことにつながっていくと感じたと同時に、実際の職業人にガイドを兼務してもらう場合に、どこまでクオリティを求めて良いのか、どういう教育体制を敷くのかといったことも考えさせられた体験でした。</p>
漁村総研 竹山	<p>漁村総研の竹山です。</p> <p>今回、愛南町の皆様と一緒に視察をさせていただきました。</p> <p>今回の視察地となった田野畑村と大槌町について、田野畑村は先進事例として、中間支援組織も確立して20年以上たっているような自治体で、大槌町は、漁村総研と一緒に海業に取り組んでいます。今年の春ぐらいに、大槌町の担当者から、愛南町の海業を先進事例として注目しているので、是非意見交換したいとお話がありました。</p> <p>実際に視察に行つて、お互いがいろいろ腹を割つてお話しすると、抱えている問題や悩み、条件が似ている部分があり、それが良い効果としてプラスに働けば良いと思ひ、候補に上げていました。</p> <p>大槌町は、皆様から見て愛南町と似たようなフェーズで、場</p>

発言者	発言内容
浜辺委員	<p>所も、拠点としての地場産業センターがあったり、NPO法人おおつちのあそびの場所があったり、ものすごく良いと思われるかもしれませんが、実際は地場産業センターも復興支援で建て、どのように活動していくか悩んでいた部分もあり、いろいろなものを海業という括りで取り入れて組み合わせた結果、今の状態にあるのだと思っています。</p> <p>故に、資源をうまく生かしながら取り組んでいるというところでは、愛南町も大槌町も、これから同じようなことを考えて取り組んでいくものと思っています。</p> <p>課題としては、高橋委員が先ほどおっしゃったように、継続性は課題だと思っています。資金面だったり人的な支援だったり、海業で今立ち上がっている時はものすごく盛り上がるのですが、10年20年たった後もずっと、皆が関わり、サポートしながら、継続性を考えながら、海業に取り組むということは大事だと思いました。</p> <p>岩手県の視察ということで、岩手県庁職員が帯同してくれました。県のバックアップの強さというものもすごく印象的だと思いますし、12月10日には、県が全国から先進事例を呼び集めてシンポジウムを行うそうです。</p> <p>岩手県の人たちが、それぐらい強力で活動されているということもすごく印象的でしたし、紹介した地場産業活性化センターという施設が、地方創生交付金を使って建てられていて、交付金、国あるいは県の制度などをもっと活用しながら、取り組んでいく姿もあわせて必要だと行政の立場でも感じました。</p> <p>また、防潮堤の話もありましたが、防災と産業活動というのは切っても切り離せないと思っていて、事業者同士のつながりが、レジリエンス、強靱性につながってくるのではないかと思います。防災の一環として海業も使える、取り組んでいけるのではないかと改めて感じました。</p>
濱座長	<p>ありがとうございました。何か質問等ありましたらお受けします。</p>
大石委員	<p>大石です。</p> <p>いろいろ視察の件について聞かせてもらったのですが、その地域に落ちてくるお金の話が一切出ていないのですが、もう20</p>

発言者	発言内容
浜辺室長	<p>年も続いている田野畑村の経済効果について周りに対する話が少し聞けたらと思います。</p> <p>まとめて私からお話します。田野畑村は、観光でまちを興す方向に全力で舵を切っている自治体です。自治体が第三セクターとして、旅館も建てて運営していますし、旅行会社と連携してお客さんを引っ張ってくる活動を、NPO法人も一緒にされていきました。</p> <p>実際にはどのような観光客が多いかというと、アメリカの雑誌で紹介されたことで、「みちのくトレイル」という、自然を体験するため1週間ぐらい滞在するようなところに外国のお客さんが多く来ていて、それが一番の収入源になっているというお話もありました。</p> <p>NPO法人が実際に何をして収支を立てているかというと、例えば、みちのくトレイルを実施している環境省の施設の維持管理委託費や、サップ船アドベンチャーという船に乗る体験で年間500人ぐらい呼び込んでいるということで、それも収入源として活用されているということでした。</p>
濱座長	<p>それでは、ぎょしょく20周年記念イベント報告について海業推進室の清水主幹から説明します。</p>
清水貴主幹	<p>第6回全体会以降の動きという資料に沿って説明します。</p> <p>まず、資料の上段、町政20周年記念事業についてという部分ですが、令和6年度に20周年を迎えるぎょしょくについて、町政20周年と合わせて記念事業を行い、これまで以上にぎょしょく発祥の地、愛南町を盛り上げることを目的として、夏季休暇期間中に町内の全小中学生を対象に西海観光船による鹿島への渡航と、マリンレジャーの無料体験を二つのコースで提供しました。</p> <p>まず一つ目が、「鹿島と特別航路&マリンレジャー体験コース」で、7月28日日曜日と8月17日土曜日に実施しました。8月9日金曜日にも実施する予定でしたが、南海トラフ臨時情報発令により中止になっています。</p> <p>このコースの内容は、鹿島への渡航、海域公園遊覧を含む特別航路となっています。鹿島アクティビティとして、シーウォーカー、シュノーケリング、SUP、海水浴場の利用も可能と</p>

発言者	発言内容
	<p>なっていました。また、ぎょしょくのレクチャーを行っています。</p> <p>二つ目のコースが、「鹿島渡航&マリンレジャー体験コース」で、7月20日から9月1日までの期間中に、参加者の方が1回利用できるというもので、内容は、鹿島渡航と鹿島アクティビティの利用です。</p> <p>実績は、参加者からは非常に楽しかったという御意見を頂いているのですが、資料中段にあるように、南海トラフ臨時情報発令や、7月上旬、下旬の新型コロナウイルスの再発等を理由に、参加者全体で見ると100名弱の参加者になっています。</p>
濱座長	<p>続いて、海業振興事業支援補助金について、海業推進室の尾崎から説明します。</p>
尾崎室長補佐	<p>海業推進室の尾崎です。よろしく申し上げます。</p> <p>海業振興事業支援補助金については、6月3日から募集を開始し、8月末まで第1回募集をした結果、応募がありませんでしたので、12月27日金曜日まで延長しています。</p> <p>概要は、町内に事務所を有する法人及び町内で活動している団体が、町が指定する期間内で実施する、海業を振興する事業に係る経費に対し補助金を交付する事業です。</p> <p>金額は、1件当たり30万円を上限として、3件程度の予算を準備しています。補助率は、上限はありますが10分の10という形にしています。</p> <p>応募要件として、海業を振興する事業であること、複数年にわたって継続的な事業の実施を目指すものであること、収益性のみを追求するものではなく、事業の実施を通して、地域の活性化を図るものであること、町のほかの補助金等で助成を受けていないこと、全ての条件に該当するものが対象となっています。</p>
濱座長	<p>ありがとうございました。ここまで何か質問等ありましたらまとめてお受けします。</p>
各委員	<p>(質問なし)</p>
濱座長	<p>それでは、次第の4に移ります。</p>

発言者	発言内容
高橋委員	<p>愛南町海業グランドデザインの進捗報告を、プロジェクトごとに行っていただきます。</p> <p>Umidasプロジェクトの報告については、次第の5にて行いますので、初めに、「人が繋がる、海から始める。インバウンド！AINANツアー生成」プロジェクトについて高橋委員から報告をお願いします。</p> <p>なお、質疑応答は最後にまとめさせていただきますので御協力をお願いします。</p> <p>高橋です。進捗状況を発表します。</p> <p>個別のインバウンド、例えば、今日もカナダ人の方がいらっしゃっていますが、当初予定していたようなツアーはまだ組めていません。</p> <p>その理由というのが、補助金に3回落ちたことです。自分としては、商品造成等まではできているので、自分のところでしっかりとしたものを作って、なおかつ、旅行者の方が利益を取れるような状態で提示することができれば、補助金も要らないというのが、今思っているところの結論です。今後は、商品は作られているので、旅行者に対して営業をかけるということが必要になってくると思っています。</p> <p>半年間いろいろ動いていた中で、旅行者とのつながりがすごく増えてきました。今回このインバウンドがあまり進んでいない理由は、私自身がインバウンドではなく、国内に力が入ってしまったことです。来年、愛媛県が南予を対象に送客キャンペーンを実施することが決まっており、国内の旅行者と共に動いて、国内に力を入れてしまったので、インバウンドが進んでいない事情があります。</p>
濱座長	<p>高橋委員、ありがとうございます。</p> <p>続いて、愛南町青春満喫スタンプラリープロジェクトの進捗について、大野委員から報告があります。</p>
大野委員	<p>TMKスタジオの大野です。</p> <p>立ち位置としては、スタンプラリーの企画運営を代行するという形で、本来なら深堀隊長が報告するのですが、本日は欠席なので代理で御報告します。</p> <p>本イベントは、愛南びやびや広め隊というところが主催した</p>

発言者	発言内容
	<p>スタンプラリーの企画で、今回は3回目です。前回と比べて、6月から12月までと長い期間行うということで、報告書も中間報告になっています。</p> <p>前回に行っていなかったデジタルスタンプラリーを導入することと、前々回までは10店舗ぐらいあったのですが、参加する店舗に、夜のお店や宿泊施設を絡めていくというこの三つの大きなチャレンジを今回実施しています。</p> <p>それぞれのチャレンジに対する評価ですが、内容を全て読み上げると時間が足りませんので、後ほど目を通してください。</p> <p>難しかったと思う点は、SNSを使ってなるべく広告費を使わずに宣伝しようと試みたことです。必要な予算は頂いているのですが、長期間になった分広告費が必要になってくるので、効率良く実施したかったのですが、なかなかうまくいかず課題が残るところです。</p> <p>そのような中、公式LINEアカウントを作って、330名の方が登録しています、右下の緑色のグラフでは、現在まで右肩上がりという形です。</p> <p>資料裏面のフライヤー配布状況についてですが、今回のスタンプラリーにどれだけの人が参加しているかの指標になります。フライヤーにスタンプ台紙が付いていますので、それを持った人がスタンプラリーに参加しているとみなしており、現在1万枚近く配布しています。</p> <p>フライヤーを持っている人全員がスタンプラリーをしているかどうかは未知数ですが、条件を満たし既に応募した方が、どの店舗でハンコを押したかをまとめたものが下の表です。</p> <p>新しく加わった夜のお店と宿泊施設のスタンプ数はゼロが並んでいます。ほとんど効果が出てない状況ですが、あくまでも中間報告のため、最終的にどのようになるかは後日報告します。</p> <p>また、応募した方たちがコメント、感想を寄せてくださっています。</p> <p>今回、イベントを代行するに当たり、このスタンプラリーが初めてで経験不足という課題がありますが、これから勉強を続け、もっとわくわくするようなイベントを企画できる場として、Umidasへの期待が膨らんでいる次第です。</p>
<p>濱座長</p>	<p>大野委員、ありがとうございます。</p> <p>続いて、「愛南町ブルーカーボン創出」プロジェクトの進捗に</p>

発言者	発言内容
清水陽係長	<p>ついて、海業推進室の清水係長から報告をお願いします。</p> <p>海業推進室の清水です。私からは愛南町ブルーカーボン創出プロジェクトの進捗について説明します。配付資料を御覧ください。</p> <p>この事業は、愛南町にもともとあるが忘れられている、価値のないものに価値を見いだして新たな事業を展開するというもので、Jブルークレジットの認証と藻場回復事業の二つに分かれています。</p> <p>Jブルークレジットの認証につきましては、令和5年度から実施しています。家串湾内のマメタワラの資源量を調査して年間どれだけのCO₂を吸収してくれるのか算出したところ、5.9トン吸収することが分かりましたので、それを申請して認証を受けお金に換えて、業者に還元するというをしています。</p> <p>この方法で申請できることが分かったので、今年度は家串湾だけでなく、油袋、平瀬、柏崎、家串の4海域でも申請することになっています。</p> <p>現在、1回目の申請書は出していて、その審査機関であるJBEの第三者委員会にかけ、最終的に年間どれぐらいの吸収量を認証するという数値が出てきますので、今はそのクレジット発行量のところは申請中と書いています。</p> <p>次に藻場回復事業ですが、まずウニの駆除については、町、漁業者、愛媛大学のほかに町内のダイビングショップも連携して実施している事業です。</p> <p>今年度の新たな取組としては、愛媛大学のダイビング部からボランティアで参加したいという要望があり、9月に一緒にウニの駆除を実施しました。</p> <p>ウニッコリーの生産はこれから取りかかるところなので、生産体制について漁協や漁業者と調整中です。昨年の反省として、このクレジットを認証して販売するときに、認知度が少ない等の課題がありましたので、こういった取組の認知度を高めるところに力を入れたいので、いろいろなところに積極的に情報発信しています。新聞にも掲載されています。</p>
濱座長	<p>ありがとうございます。続いて、「愛南ぎょしょくツーリズムプロジェクト」の進捗について、清水主幹から報告をお願いします。</p>

発言者	発言内容
清水貴主幹	<p>ぎょしょくツーリズムの進捗については、9月に二つのモニターツアーを実施しました。</p> <p>一つ目が、久留米大学の3回生11名を対象とした、モニターツアーです。実施日は9月9日から13日までで、内容は、マダイ養殖業者の見学、水産加工会社の見学、愛南産養殖マダイを使った調理実習、シーウォーカー、石垣の里ツアー、南水研の学生との交流です。</p> <p>二つ目は、愛媛大学の1回生25名を対象に、9月17日から18日までで行いました。内容は、マダイ養殖業者の見学、愛南産養殖マダイを使った調理実習、バロック真珠アクセサリー作りです。</p> <p>もう一つ、8月下旬に松山大学のマダイ応援隊のフィールドワークを、モニターツアーとして受け入れる予定でしたが、悪天候により延期になっており、11月27日に代替で実施する予定です。</p> <p>この二つのモニターツアーを実施し、3か所及び体験提供事業者へのアンケートを実施しています。</p> <p>愛南町ならではの非日常体験や食といったコンテンツは人気があるということで、説明方法や時間配分、関係者への配慮等の課題も明確になってきています。</p>
濱座長	<p>ありがとうございました。これら四つのプロジェクトについて、質問等ありましたらまとめてお受けします。</p>
大野委員	<p>大野です。</p> <p>ぎょしょくツーリズムのモニターツアーについてですが、このモニターツアーで参加者にお金を頂いていないですか。</p>
清水貴主幹	<p>今回のモニターツアーでは金額設定はしておらず、実費のみの負担となっています。</p>
浜辺室長	<p>補足しますと、アンケートの中で「ツアー体験にいくらまで支払いますか」という質問をしています。今回モニターツアーの実費分として払っていただいたというのは、材料費は払って、マダイの養殖場見学、生産加工場の見学は、事業者さんに協力してもらっていますのでお金は発生していません。外泊の石垣</p>

発言者	発言内容
	<p>この運営委員会を進めるための会議の中で、お互い協力したいのに、お互いのことを全然知らないから全く協力できないという話があったので、いわゆる飲み会を開きました。スピンオフ会議と呼んでいるのですが、その場での、ある主婦の方の、「私はがむしゃらにお金を稼げれば良いというのではなくて、長くこの愛南町で幸せに生活ができれば良いよね。」という言葉が始まりでした。</p> <p>言葉を実現するためにどうしたら良いのか推進会議の場で行う話を進めましたが、二つの条件が上がりました。ある程度自分が自由にできるお金が維持されていること、そして、仲間内で笑い合える環境、豊かなコミュニティーの形成という条件が整っていれば、一般論として、基本的に楽しい幸せな状態が維持できるということです。</p> <p>ただ、この話を維持するときに、もっと土台の部分で重要なことが自治体の維持です。愛南町の維持、これがないと、その話も実現することができなくなってしまうので、この左の白地の部分は、実際の維持があって、ある程度犠牲を確保できて、豊かなコミュニティー形成ができているのであれば、愛南町で幸せに生活できるよね、という話をまとめています。</p> <p>ここからもう少し話を広げるのですが、自治体が持っている本来の機能というものが、この全ての枠に集約されています。このピンクの枠が全て連動してつながっていることの認識はすごく重要です。人口増加、維持というところから話をするのですが、この人口増加、維持、増加は難しいので維持ですが、これが実現できた場合、自治体の維持ができるようになります。自治体の維持ができているのであれば、ある程度個人の所得を伸ばすことの土台ができることにつながります。</p> <p>個人の所得が伸びて、ある程度余裕ができた状態であれば、基本的に人は、豊かなコミュニティー形成を自分で行う生き物です。このコミュニティー形成ができると何ができるかというのが、この会議も同じで、いろいろな事業者間の会議ですとか、人の流動性、要するに意見の流動性が確保されるので、中の意見ばかりに固まらずに、外の意見もどんどん入ってくる、それができると、右側の既存のサービス競争力の強化につながるという話です。人の流動性が確保され、コミュニティーの形成が確保されていると、新規の事業も参入しやすい環境が広がるので、とにかくこの右下の方につながっていきます。</p>

発言者	発言内容
	<p>この、競争力の強化、既存サービス、ほかの地域と戦えるだけの競争力を維持できるのであれば、雇用というものが維持される右上につながるのですよね。</p> <p>雇用が維持されると、当然その左側の人口の維持、増加につながって、その左が実際の維持につながるというように、左回りに連鎖が生まれていくのが、本来自治体が持っているべき機能の一つです。</p> <p>二つ目の、機能が維持できないときに何が起こるか、負の連鎖についても話をするのですが、先ほどの話を逆にすると簡単です。愛南町はこの人口が維持できてない、減少傾向にあります。人口減少が起きると、自治体の維持ができなくなって、だんだん痩せ細ってきます。そうすると、ある程度個人の所得が伸び悩んで減少傾向になると思います。そうすると自分の生活にいっぱいいっぱいになるので、コミュニティーの形成というのが必要最低限になって、どんどん人の流動性もなくなっていきます。人の流動性がなくなると、組織は凝り固まって緩やかな減びにつながっていく、競争力がなくなってしまいます。そうすると、右下、愛南町が選ばれずにほかの地域が選ばれるようになります。そうすると、上につながる雇用の維持が崩壊していくので、人口減少につながり、負の連鎖が起きてしまいます。</p> <p>ただ、愛南町は幸運なことに、実際にはこの負の連鎖がそこまで起こっていません。人口が減っていることは実感できますが、ほかに町が崩壊するレベルでまずいことが起きているかということは余り実感ができません。</p> <p>この理由が何かというと、水産業がすごく強いからだと思います。水産業が、個々の自治体の維持というところを、今はお金の力では支えています。</p> <p>ただ、水産業がこの先ずっとこの状態を続けられる補償はないので、お金があるうちにこの連鎖を止めて、自治体の本来の機能を戻す必要があります。</p> <p>これが、我々海業がしなくてはいけないことです。海業ですることというのが、要するにこの連鎖を皆で広げていくことですが、関わる人々それぞれに得意不得意があります。</p> <p>例えば、自分は事業者なので、右下の部分の新規事業を起こしたり協力事業プロジェクトを組むなど、右上の雇用につながる場所は直結する、簡単にできる場所です。これが例えば</p>

発言者	発言内容
	<p>行政サイドで働いている人間になると、自分で事業を起こすことができないので、ここに直接寄与することはなかなか難しいです。私がこの場で言いたいことは、この会議にはいろいろなプレーヤーが集まっていますが、各自がこの一つ一つのピース、歯車になって、全員でこの表を回していくことが、自分たちが行う海業なのだと認識してほしいということなのです。</p> <p>そう考えると、例えば、今日は漁業について語りましたというときでも、私は観光事業なので、右下の部分に充てるので話を聞いているだけで3番の部分、コミュニティーの形成というのはできているし、なおかつ自分の事業で一つの歯車になれているのだ、というのは維持できています。</p> <p>この認識を持ったまま、自分が得意なところで次のパートにつなげようと、少しだけ意識を持つことがすごく大事だと思っています。皆がこの意識を持っていくと、何かチャンスがあったときに、愛南町全体で動ける、というのがこの表です。</p> <p>もう一つ、この歯車を一周回して満足するのではなくて、どんどんどんどん回して、徐々に徐々にこの場を広げていってください。関わる人たちを広げていくことができれば、らせん階段状にどんどんどんどん広がって行って、一番上のところに、最後に自分たちが想像する未来のまちがあるのではないかというのが、自分たちが愛南の海業でしたいことだと思っています。</p> <p>負の連鎖をとめるために、らせん状に広がる階段をうまく作っていくということが、私たち愛南町でしたい海業だと思っています。</p>
濱座長	<p>ありがとうございました。続けてU m i d a sプロジェクトについて、浜辺から説明します。</p>
浜辺室長	<p>U m i d a sプロジェクトについてという資料を御覧ください。</p> <p>高橋委員から話があった、水産業がどれだけ愛南町を支えているかという3枚目の資料を御覧ください。</p> <p>企業数でいうと3.3%、従業者数でいえば12.1%で、金額で言えば30%以上が水産業で生計を立てている町だと書いてあります。</p> <p>具体的には、漁業で17億円、養殖業で170億円の生産額を持っています。さらに、現金商売で入っている真珠業者の所得は</p>

発言者	発言内容
	<p>入っていませんので、実際はもっと多いです。</p> <p>真珠の話をしました。我々の施設である海洋資源開発センターという真珠の種苗生産の拠点、全国に名だたる真珠を作っていく、母貝の生産拠点になっています。</p> <p>また、ぎょしょく活動を20年間続けてきて、町の中で「ぎょしょく」と言えば話が通じるほど市民権を得ていることも資源だと感じています。</p> <p>さらに、今日は後藤委員がいませんが、南予水産研究センターでは、いろいろな先進的な研究を行い、人材もたくさん輩出していただいています。水産課にも、5名の南水研出身の職員が在籍しています。</p> <p>こういった地域資源を持っているという話も高橋委員の話の補強になると思ってお話ししました。</p> <p>1ページ目に戻りますが、先週、先々週といろいろと振り返りの時間を持ちました。その中で、U m i d a s について、議論が十分なのか、法人化ありきで話を進めるのか、あるいは誰が担うのかなど、まだまだ見えていないのではないかという話がありました。それもあって、先ほどもお話した振り返りを行い、水産業の説明をしました。また、岩手の視察に行き、やはり教育貢献にも注目できるぎょしょく教育は、すごく大事な資源だという議論は尽きませんでした。</p> <p>そういう議論が今までの全体会でもあって、ぎょしょくツーリズムがグランドデザインの中にも入っていることを確認しました。</p> <p>これを発展的にしていくことが、資料の赤字で書いてある、「ぎょしょく教育とツーリズムと両輪で進めることで地域愛を育みながら地域活性化を進めていく」ということです。これが、先週まで、皆さんで議論されてきた内容です。</p> <p>ただ、ぎょしょく教育で具体的にどのようなことしているのかがまだ分からないので、今日この後、運営委員会で清水主幹からレクチャーしていただくことにしています。</p> <p>そして、海業の定義、改めてですが、海業というのは、海・漁村の地域資源の価値や魅力を活用しながら地域のにぎわいと所得の向上、更に雇用を生み出していく、このことに尽きるわけです。</p> <p>これを、地域愛を育みながら、人を呼び込みながら、仕事も創っていったって更に活性化させていく好循環につなげていきたい</p>

発言者	発言内容
	<p>と考えているところです。</p> <p>Um i d a sプロジェクトについて、今年度の方向性という資料を8ページに用意しました。</p> <p>いろいろな議論はまだまだ続けていかななくてはいけないのですが、どのようなことをしていくのかという事業内容について、先ほど大石委員から質問があったように、お金をどのように稼ぐのかということも具体的に話さなければいけないと思います。</p> <p>後、関係者はこれで十分なのかということで、今日傍聴にも来ていただいておりますが、観光協会や商工会の方も、より交わる形での準備委員会を立ち上げて、中身について議論をしていきたいと思っています。</p> <p>あわせて、法人化というところですが、法人化するメリットは、補助金を受けやすくなるということです。補助金に合わせる必要は全くないのですが、資金を獲得しやすくなるというところは大きいですし、対外的な信用度が上がるというところが一番大きいと思いますので、これについても進めていきたいというのが議論から生まれてきた話です。</p> <p>目標ですが、赤字で書いてあるように、来年2月を目途に、法人を立ち上げて事業開始を目指すというところで進んでいきたいと思っています。</p> <p>次のページにどのような体制で検討し、どのようなスケジュールでということは書いています。</p>
濱座長	<p>ありがとうございました。今の二つの説明について、質問等ありましたらお受けします。</p>
李委員	<p>Um i d a sに非常に期待しているところですが、今回皆さんが田野畑村に行き、体験村たのはたネットワークという、今ではNPO法人化されている組織ですが、先ほど浜辺室長からもありましたように、今後体験村たのはたの機能について、是非Um i d a sで生かすべきところ、あるいは、違う形でしていくということも少しお話しいただきたいです。</p>
浜辺室長	<p>具体的なことについては、これから話していくというところにはなるのですが、例えば、お客さんの呼び込み型旅行業との連携のようなところはすごく参考になったと思いますし、それ</p>

発言者	発言内容
	<p>どれコアの皆さんに意見を求めると時間が掛かってしまうのですが、やはり町が一緒になって最初に協議会立ち上げたというところもありますので、そういうところも、一緒にしていきたいと思います。</p> <p>違いとしては、教育にぎょしょくが根付いていること、そして水産業の地位です。田野畑村は、漁業がそこまで盛んではないこともあって、そことの連携を愛南でどう作っていくか、生かしていくのかがポイントになると思います。</p> <p>具体的にこうだということを私の口から言うのも違うかなと思いますし、これから皆で議論していきたいと思っています。</p>
濱座長	<p>それでは、最後に意見交換を行いたいと思います。全体を通して疑問点や質問、御意見や感想などお話しいただければと思います。</p>
田中純委員	<p>私というよりも、中村町長に、今までの話を聞いて、何か御感想で良いのでお話を聞かせ願えたらと思います。</p>
中村町長	<p>本当に活発な議論していただきましてありがとうございます。</p> <p>私自身が一番感じているのは、先ほど法人化の話も出てきたのですが、やはり最終的に誰を充てることができるか、それは役場だけではなく、外部からの登用も含めて、その人材によってかなり決まってしまうのかなということが実感としてあります。</p> <p>こういう良い人がいる、という話もどんどん知らせてほしいですし、もしかしたらこの中から手を挙げる方がいるかもしれませんが、恐らくそこで七、八割決まるのではないかというぐらい、人探しを、本当に今から早急にする必要があったと思いました。</p> <p>そういう思いにさせていただいた議論をしていただきありがとうございます。</p>
濱座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>そのほかにありませんか。</p>
前田委員	<p>愛媛大学の前田です。</p>

発言者	発言内容
	<p>いろいろな議論、今までの振り返りもできて、これから進むべき方向も少し見えてきて良い方向になってきたのではないかなと思います。</p> <p>その上で、やはり法人化が必要であれば、法人化という形にはなると思うのですが、まずそういう機能をどう充実していくのかという視点で話し合いが進み、結果として、組織、法人の組織が要するという形になっていくのではないかなと思います。</p> <p>あまり目的だけ考えていくと、恐らく片手落ちになると思うので、その辺りのところをうまく手段として考えたときに、U m i d a s で何を生み出すのか、何をしていくのかというところの議論がしっかりできたら良いのかなと思います。</p> <p>是非皆さんと一緒に考えていけたら良いかなと思います。</p>
濱座長	<p>それでは、議事次第のその他に移りますが、特に事務局からの発表はありません。</p> <p>委員から何か御発言がありましたら承りたいと思います。</p>
各委員	(発表なし)
濱座長	以上で、その他を終わります。進行を尾崎に戻します。
尾崎室長補佐	<p>皆様、本日はありがとうございました。</p> <p>連絡事項を3点、お伝えします。</p> <p>1点目です。本日この後運営委員会を行いますので、普段参加されていない方も是非御参加いただければと思います。</p> <p>2点目です。次回の海業推進会議については、2月頃に開催予定です。改めて事務局から日程調整をしますので、よろしくお願ひします。</p> <p>3点目です。お配りしていますアンケート票は、なるべく本日中の提出をお願いします。提出が難しい場合は、返信用封筒をお渡ししますので、早めの返信をお願いします</p> <p>最後になりますが、本日の配布資料と簡単な議事概要は、後日公表する予定です。</p> <p>以上をもちまして、第7回海業推進会議を終了します。本日は御参加いただき誠にありがとうございました。</p>